

ごあいさつ



隊友会創立 60 周年記念式典は、新型コロナウイルスの世界的大流行により、我が国でも緊急事態宣言が出され、外出の自粛と大規模集会等の中止が要望され、会場に予定していたホテル・グランドヒル市ヶ谷は厚生労働省の要請に基づき帰国者等の一時滞在施設として提供されました。このため、やむを得ず 60 周年記念式典を中止しました。

昭和 35 年 12 月に、全国の OB 会が大同団結して防衛庁所管団体として社団法人隊友会が創立してから 60 年になります。また、公益法人法の成立に伴い、平成 23 年 4 月に内閣府所管の公益社団法人隊友会に移行してから 10 年が経ちました。

公益法人移行後は、防衛省・自衛隊を支援し、防衛意識を啓蒙する公益事業を主体に会務を運営してきていますが、平成 29 年 5 月には陸上自衛隊と、令和元年 6 月には海上自衛隊と家族支援協力協定を結び、隊員家族の支援を開始しました。

少子高齢化が急速に進展する中、自衛隊の任務は多様化、国際化、そして繁忙化し、隊務運営環境がより厳しさを増しています。このような環境下、平成 30 年の防衛大綱（平成 31 年度防衛大綱）において、防衛力の持続性・強靱性の観点から、人材を有効活用するため定年延長や再任用の拡大に加え、自衛隊の専門性の高い分野において部隊等における退職自衛隊員の技能等の活用を推進することが初めて示されました。

隊友会が果たすべき役割はますます重要になるとともに、防衛省・自衛隊に対して隊友会として何ができるかが問われる新たな時代を迎えています。隊友会の基盤充実と活動を支え、活力と魅力に溢れた隊友会を創造できる源は、会員の参画意識であり、各支部等の積極的な活動です。我々は、60 年の歴史を築かれた諸先輩方の意思と成果を引き継ぎ、新たな時代にふさわしい隊友会活動を続けて行かなければなりません。

令和 3 年 2 月吉日

理事長 折木 良一